

たまねぎレポート【第431号】



令和5年9月26日

社内報

阪南青果株式会社

8月の天候は、気温は北・東・西日本でかなり高かった。降水量は沖縄・奄美でかなり多く、東・西日本の太平洋側で多かった一方、東日本の日本海側でかなり少なく、北日本の日本海側と北日本の太平洋側で少なかった。日照時間は東日本の日本海側と北日本の太平洋側でかなり多く、東日本の太平洋側で多かった。北海道の8月は、太平洋高気圧に覆われた日が多く、記録的な高温、猛暑日を多くの地点で観測された。9月に入ってから残暑が厳しく、彼岸になっても猛暑の日が多く、今夏は全国的に異例の猛暑に見舞われ、秋冬野菜に高温障害が発生している。

気象庁の10月～12月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北日本

で平年並みまたは高い確率ともに40%。東・西日本と沖縄・奄美で高い確率50%。月別予報は次の通り。

10月、北・東日本と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わる。西日本では天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。東・西日本の日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

12月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の8月の野菜の販売量は、209,138トン前年比98%(前月比103%)平均単価はkg ¥254前年比105%(前月比99%)。市場別には多少の差があるものの、総じて販売量は前年比減、前月比増。単価は前年比高、前月比安となっている。市場別の販売量と平均単価及び前年比は、札幌市場の販売量は前年比88%、平均単価はkg ¥218前年比106%。東京市場の販売量は前年比98%、平均単価はkg ¥272前年比105%。名古屋市場の販売量は前年比99%、平均単価はkg ¥242前年比102%。大阪本場の販売量は前年比101%、平均単価はkg ¥249前年比104%。福岡市場の販売量は前年比105%、平均単価はkg ¥208前年比103%となっている。

建値市場の8月の玉葱の販売量は22,468トンで前年比106%、(前月比115%)、平均単価はkg¥106前年比78%(前月比90%)となっている。市場別では、札幌市場の販売量は2,604トン前年比75%、平均単価はkg¥85前年比75%。東京市場の販売量は8,886トン前年比98%、平均単価はkg¥111前年比81%。名古屋市場の販売量は5,137トン前年比105%、平均単価はkg¥107前年比79%。大阪本場販売量は3,612トン前年比118%、平均単価はkg¥105前年比70%。福岡市場の販売量は2,229トン前年比105%、平均単価はkg¥105前年比70%となっている。

東京都中央卸売市場の8月の野菜の入荷量は、110,988トン前年比98%(旬別の前年比は上旬92%、中旬91%、下旬112%)。平均価格はkg¥272前年比105%(旬別では上旬がkg¥268前年比104%、中旬が¥266前年比102%、下旬が¥280前年比109%)、となっている。主要15品目で入荷量が前年比増の品目は、バレイショが前年比117%、トマトが113%、キュウリが104%、ネギも104%、ナスが102%など5品目。入荷が前年比減の品目は、ニンジンが前年比89%、サトイモが90%、ダイコン・ナマシタケが92%、ハウレンソウが93%、キャベツが95%など9品目。価格が前年比高の品目は、ハクサイがkg¥83で前年比140%、ナマシタケがkg¥1,013で116%、ナスがkg¥322で115%、キャベツがkg¥78で114%、ピーマンがkg¥481で113%、キュウリがkg¥317で112%、など11品目。前年比安の品目は、ダイコンがkg¥109前年比79%、タマネギがkg¥111で81%、トマトがkg¥347で87%、ネギがkg¥360で89%など4品目となっている。

東京都中央卸売市場の8月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	110,988	98.2	100.4	272	104.9	100.4
た ま ね ぎ	8,886	97.8	109.0	111	81.1	90.2
キ ャ ベ ツ	16,052	95.0	105.7	78	114.3	80.4
は く さ い	6,070	96.7	111.5	83	140.1	112.2
だ い こ ん	6,222	91.6	86.8	109	79.1	118.5
に ん じ ん	5,060	89.2	98.7	153	105.6	104.8
ば れ い し ょ	5,382	117.2	133.5	153	108.2	87.4
レ タ ス	9,454	96.3	98.2	151	105.2	121.8
ね ぎ	3,471	103.5	101.2	360	89.4	107.5
ト マ ト	8,406	113.2	126.5	347	86.5	92.8
き ゆ う り	8,061	104.3	114.2	317	112.3	106.7
か ぼ ち ゃ	1,944	97.8	102.2	206	110.2	95.8
な が い も	604	76.1	81.0	469	153.6	106.1
れ ん こ ん	696	114.8	184.6	303	71.3	60.8
に ん に く	168	84.6	112.0	957	107.9	105.4

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の8月の玉葱の入荷販売量は8,886トン前年比98% (前月比110%)。主力は兵庫物から北海物に移行。北海物の入荷量は6,367トン前年比87%、占有率は72%で前年比9ポイントダウン。兵庫物は1,461トン前年比163%、占有率16%前年比6ポイントアップ。佐賀物は549トン前年比361%、占有率6%前年比4ポイントアップ。富山物は241トン前年比114%、占有率3%で前年比1ポイントアップ。中國物は150トン前年比76%、

占有率2%前年比0.5ポイントダウン。総平均単価はkg ¥ 111前年比81% (前月比90%)。北海物はkg ¥ 109前年比84%。兵庫物はkg ¥ 127前年比62%、佐賀物はkg ¥ 110前年比60%。富山物はkg ¥ 98前年比82%。中國物はkg ¥ 109で前年比76%。となっている。

9月に入り、北海物主導の販売となったが、今年の北海物は高温障害で病害・日焼けが多く、極早生から品種が切り替わっても、イタミの発生率が高い。異常高温で他野菜も品薄傾向が続いており、玉葱の需要増が予想されたが、需要の伸びは今ひとつで、2L、L大はそれなりに捌けていたものの、L、Mの動きは鈍かった。昨今の入荷は順調だが、いずれの銘柄にもイタミが散見される。球流れはL大、Lが半々で、2Lは殆どない。小売店への売り込み対象はL、Mで、L、Mの動きは順調だがL大の動きは鈍い。

9月1日～20日の玉葱の販売量は6,477トン前年比94%(前月比114%)、平均単価はkg ¥ 105前年比88%(前月比91%)。産地別の販売量と平均単価は北海物が6,218トン前年比94%、平均単価はkg ¥ 105前年比89%。中國物は91トン前年比84%、平均単価はkg ¥ 117前年比86%。兵庫物は57トン前年比173%、平均単価はkg ¥ 135前年比66%。となっている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の8月の玉葱販売量は5,137トン前年比105%(前月比114%)で前年比、前月比ともに増となっている。主力は北海物で3,070トン前年比86%、占有率は60%で前年比13%ダウン。兵庫物は1,635トン前年比207%、占有率は26%で前年比10ポイントアップ。富山物は165トン前年比116%、占有率3%で前年と同じ。愛媛物は100トン前年比98%、占有率2%で前年と同じ。総平均単価はkg ¥ 107前年比79%(前月比96%)。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥ 107前年比84%。兵庫物はkg ¥ 110

前年比59%。富山物はkg ¥104前年比68%。愛媛物はkg ¥61前年比100%。となっている。

9月に入って、北海物オンリーの販売となり、道東のJA北みらいが主力である。豪雨の影響でJRコンテナ輸送の乱れで入荷は少ない。然し、多少の手持ち在庫があり、それほど困らなかった。輸送面が懸念されるほか、品種の切り替わりで入荷減が心配されたが、大事に至らなかった。現在の入荷は順調で相場は保合を維持しているが、荷動きは今ひとつで在庫が1万ケースを超えている。品種はオホーツク222に切り替わっているが、品質的には心配がある。昨今の仕切値は¥2,000となっているものの、此の先値上げ要請が懸念され、需要の伸びが期待出来ず、心配している。

大阪本場

大阪中央卸売市場本場の8月の玉葱の販売量は3,6127トン前年比118%(前月比112%)で前年比、前月比とも増となっている。産地別の販売量は、兵庫物が1,918トン前年比140%、占有率53%前年比8ポイントアップ。北海物は1,674トン前年比101%、占有率46%で前年比8ポイントダウン。総平均単価はkg105前年比69%(前月比94%)。産地別の平均単価は、兵庫物はkg ¥109で前年比60%。北海物はkg ¥100で前年比79%。となっている。

9月に入って、兵庫、北海物とも入荷が少なく、荷動きは回復基調となり、相場は強気配に転じたが、いずれの産地も腐敗が散見され品質に難があり、相場の好転は期待薄となった。兵庫物は銘柄に依る品質格差が大きく、特選品は上値中心だが、レギュラー品は下値中心の販売となった。北海物は、2Lの比率が少なく2Lは強保合でL大、Lは保合で荷動きは回復傾向となった。月半ばには兵庫物は入荷少なく銘柄格差はあるものの荷動き良く完売状態が続い

た。北海物は、入荷順調で割安のL、Mの動きが良くなり、L大の動きが鈍化した。此処に来て、兵庫物は品質の良い銘柄は少ないものの、量販店の品揃えや食味の関係で、荷動きが良く完売している。他方、北海物は売り込み対象のL、Mの動きは良いが、L大の動きは重い。JA系統の入荷はL大の比率が高いが品質的に不安があり、仲卸の多くは手持ち在庫を控えている。

9月1日～20日の玉葱の販売量は2,465トン前年比116%、前月比113%平均単価はkg¥105前年比80%、前月比95%。産地別の販売量と平均単価は、北海物が1,911トン前年比133%、平均単価はkg¥103前年比88%。兵庫物は466トン前年比133%、平均単価はkg¥119前年比57%。となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の8月の玉葱販売量は、2,229トン前年比105%(前月比(116%))で、前年比、前月比とも増となっている。主力は北海物で、販売量は1,082トン前年比74%、占有率49%前年比19ポイントダウン。佐賀物は869トン前年比249%、占有率39%前年比23ポイントアップ。中國物菌145トン前年比71%、占有率7%前年比3ポイントダウン。総平均単価はkg¥105前年比70%(前月比94%)で前年比、前月比も安値となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg¥115前年比85%。佐賀物はkg¥94前年比47%。中國物はkg¥93前年比82%。となっている。

9月に入って、JA北みらい、JAふらの中心の入荷で、荷動きは良くもなく悪くもない状態で、相場的には上値が少なく中値・下値が殆んどであった。球流れはL中心で、品質的には当初に比べると良くなった。此の先、豪雨の影響でJAコンテナ一便の乱れで、入荷が減少する。との通告を受け、中旬は品薄高が予想されたが大きな乱れはなかった。昨今の入荷は少なめだが相場は保合で変

化はない。淡路物は、注文があれば転送業者より仕入れているが、いずれも品質が悪い。北海物の入荷は多くはないが、荷動きはまずまずで相場は保合。高値は少なく、中値中心の販売となっている。

9月1日～20日の玉葱の販売量は1,534トン前年比91%(前月比121%)で前年比減、前月比増となっている。平均単価はkg ¥109前年比85%(前月比100%)で前年比安・前月比同値となっている。

9月25日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 販売量245トン

北 海 20kgNT2L ¥1,800～1,700、 L大 ¥1,800～1,600、 L ¥1,600～1,500、
M ¥1,100～1,000。

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,800、 L大 ¥2,200～2,000、 L ¥2,000～1,600、
M ¥1,500～1,200。

【太田市場】 販売量398トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,000、 L大 ¥2,200～2,000、 L ¥2,000～1,800、
M ¥1,700～1,200。

【名古屋北部市場】 販売量226トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥2,100～1,900、 L大 ¥2,200～1,900、 L ¥1,900～1,800、
M ¥1,600～1,400。

【大阪本場】 販売量282トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,000、 L大 ¥2,200～2,100、 L ¥1,800～1,700、
M ¥1,600～1,500。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,300～1,200、 L ¥1,500～1,200、 M ¥1,300～1,100。

【福岡市場】 販売量194トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200~2,000、 L大 ¥2,400~2,100、 L ¥2,300~2,000、
M ¥1,700~1,600。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,600~1,500、 L ¥1,600~1,500。

供給(産地)の動き

府県産の即売出荷は、佐賀物は8月の半ばに、兵庫物は8月末に殆どが終了した。北海物は8月から極早生の出荷が始まったが、8月の市況が期待に反し、弱含んだ。北海産は、気温の上昇で生育は前進化し、極早生は豊作型となったが、後続の中晩生は高温続きで葉枯れが早く、収穫は1週間程度早まり、作柄も平年作を下回った。ホクレンの本年度産の生産概況調査でも、生産量は7月には720,010トン(前年比101%)、8月には705,890トン(前年比99%)、9月には683,170トン(前年比96%)に下方修正されている。10月以降も商品化率の低下が懸念され、出荷量は9月予想の643,120トン(前年比95%)から更に3~5%の下方修正が予想される。今年産は異常高温に見舞われ、病害や日焼けが多発し、商品化率の落ち込みが懸念されている。最終的な出回り量は前年比7~10%の減少になる可能性が高い。府県産の冷蔵物は兵庫物主力だが淡路島内の冷蔵庫には20kg換算で入庫は967千ケース(前年比136%)となっている。数量は多いが品質に難があり、商品化率は過去最低となる可能性が高い。他方、輸入量は、前年の9~4月の152,054トンをかなり下回ると予想される。

府県産地

佐賀では、即売玉葱の出荷は8月半ばに終了し、9月に入ってから、次シ

一ズンの播種育苗が始まっている。今年は9月になっても気温が高く、異例の高温続きであったが、9月半ば過ぎから播種が始まっている。高温多雨の天候が続き、発芽・苗立ちが心配されたが極早生の発芽は順調で、既に大浦地区の一部で定植が始まっている。全体的な作付面積は未知数だが、種の配付から推測すれば、次年度の作付は減反傾向になる。と予想されている。玉葱は重量野菜で収穫はかなりの重労働になるため、高齢の生産者の作付減が進んでいる。玉葱栽培を継承する若者は少ない。

兵庫の主産地淡路島では、即売物の出荷は8月末で殆ど終了し、9月は短期の冷蔵物の出荷が中心となっている。今年産は大豊作であったことで球締りが今ひとつで、現在出荷の冷蔵物は品質に難があり、商品化率は著しく低下している。出庫時の結露がひどく、乾燥などの手入れも不十分で市場の評価は極めて低い。今年は、長期貯蔵に向く的確品は少なく、春先までの貯蔵が懸念されている。冷蔵物の入庫原価は20kg ¥1,200~1,300が主力で、商品化率は低いが、現在の市況は採算に乗る水準である。既に、次シーズンの播種・育苗が始まっているが、発芽は良好である。南あわじ地区の生産循環システムが『日本農業遺産』に認定され、玉葱栽培の意欲も高揚すると予想されたが、大型の農業法人では増反が予想されるものの、高齢者の生産者の減反が多く、全体的に増反は期待出来ない。

8月末の島内の冷蔵入庫は淡路産が868,083(前年比132%)。他県・北海産が67,500(前年比342%)。輸入物31,560(前年比100%)。合計967,143(前年比137%)。単位は20kg換算

北海道産地

今年の北海道産は初期生育は順調で豊作型が予想されたが、7月以降は、高温障害による病害の発生や極早生種SNの品質劣化が目立ち、市場の人気

を落とした。今夏は異常な高温が続き、8月からは日を追って作柄が悪化した。生育は前進化し、収穫は平年よりも1週間～1旬早まったが、球肥大が進まず小粒傾向で、天候不順で風乾が今ひとつとなり、仕上がりが悪くなった。昨今では、オホーツクの一部以外は収穫は終了している。産地関係者の多くは、今年の出回り量は、地域、生産者別にかかなりの差はあるが、前年比10%程度減少すると見ている。此の先、生産者の粗選と、JA、商系の厳選出荷が始まる。

輸入の動き

8月の輸入量は速報値で20,666トン前年比94%。国別では、中国が主力で輸入量の99%を占めている。中国が20,533トン前年比94%。ニュージーランドが76トン前年比27%。オーストラリアが50トン前年比75%。となっている。日本のマーケットは府県産、北海産とも高温障害による品質劣化と猛暑続きで、需要が伸びず、需給は緩み市況はギリ貧状態が続いた。為替の円安で輸入物はコスト高となっているが、中国物は予想を上回った。

中国、主力産地は甘粛省だが、収穫・出荷の最盛期で現在の日本向け価格は、剥き玉20kg・C&F・\$8.00の水準である。

10月の市況見通し

9月市況は、北海物主導の販売となったが、NS系品種の品質不良でたなもちの悪さと、残暑が厳しく需要は伸び悩み、期待外れとなった。兵庫産の冷蔵物も品質不良品が多く、人気は今ひとつであった。10月は北海、兵庫物とも厳選出荷に徹すると思われるが、市場サイドでは品質は今ひとつだが、高値販売をと要請されても応じることは難しく、消費は減退する。10月以降の玉葱の供給量は予想外に少なく、需給は品薄傾向になる。いずれにしても、品質が向上すれば、10月市況は底上げから堅調市況に転じると見ている。(笹野敏和記)